

県民の命・暮らしを守るために 新型コロナ封じ込めに 全力を



一般質問に立つ佐藤県議=6月22日

6 月県議会(6月8日~30日)で日本共産党の佐藤まさゆき県議が一般質問に立ちました。

奥能登の学校で120人を超えるクラスターが発生したことに関し、北野喜樹健康福祉部長は、1日最大5500件の検査能力を生かして3回のPCR検査を行ったとしました。また、医療機関・高齢者施設等についても、希望のあった360施設2万4000人のいっせい検査を行い、3人の陽性を確認したと明らかにしました。

谷本正憲知事に再質問した佐藤県議は「感染の兆候が見られる場合には、これまで以上に幅広く検査して封じ込める、そういうメッセージを県民に示すべき」とせまり、知事も「おっしゃる通り」と述べざるを得ませんでした。

しかし、広島・徳島・福岡の各県では、来県時に無料PCR検査を実施することになった点からみても、石川県の検査戦略は中途半端です。引き続き大規模検査の実施を強く求めていきます。

安全・迅速な ワクチン接種へ



「うちにはワクチン接種券が届いていない」など高齢者の声を紹介し、一人暮らしの方など接種を希望する人が全員接種出来るよう、県としても丁寧な対応をとることを求めました。政府が安定供給の責任を果たしていないことは重大であり、正確な情報を国民と自治体に伝えるべきです。

学校のトイレに 生理用品常備求めて



コロナ禍のもと、経済的理由で生理用品が買えないなど「生理の貧困」が問題となる中、学校のトイレに生理用品を常備してほしいとの請願の紹介議員になりました。

議会最終日に賛成討論に立ち、トイレに常備している他県から「自分から言い出しにくかった子どもが、安心して学校生活を送れることにつながっている」との声を紹介し、賛同を求めました。

「命」優先に… 東京五輪中止求める意見書提案



「五輪より命が大切」—この立場から五輪を中止してコロナ対策に全力をあげることを国に求める意見書を提案しました。

7月16日の厚生文教委員会でも、東京五輪のホストタウンになっている金沢市・小松市・加賀市・志賀町での感染対策について、内閣官房五輪事務局受け入れマニュアルでは選手等は原則毎日検査を行うとしていることをとりあげ質問。健康福祉部長は「国費の自主検査なので毎日の県の検査報告には含まれていない」としました。

佐藤県議は、毎日検査が必要としているのだから、金沢市片町における希望者いっせい検査も、せめて2回行うべきではないかとの質問に部長は「1回の検査の様子をみて」と述べるにとどまりました。

6月議会における意見書・請願に対する各会派の態度

	共産党	自民党	公明党	未来	WILL	結果
五輪中止を求める意見書	◎	×	×	×	×	不採択
全国一律最賃1500円実現求める意見書	◎	×	×	×	×	不採択
生理用品の学校トイレ常備を求める請願	◎	×	×	×	×	不採択
消費税インボイス導入反対の意見書採択を求める請願	◎	×	×	×	×	不採択

◎:提案・紹介 ×:反対

